

# Economic Indicators

発表日: 2019年11月8日(金)

## 景気動向指数(2019年9月)

～駆け込み需要で高い伸びも、基調判断は「悪化」で据え置き～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

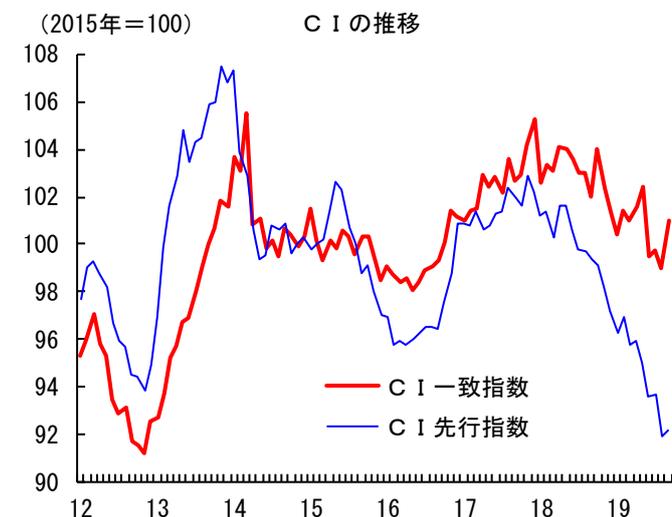
### C I 一致指数は駆け込み需要で高い伸びに

内閣府から公表された2019年9月の景気動向指数では、C I 一致指数が前月差+2.0ポイントとなった。18年10月(+2.0ポイント)以来の高い伸びである。内訳では、有効求人倍率などがマイナス寄与になった一方、小売業販売額や卸売業販売額、投資財出荷指数などが大きく押し上げている。9月に消費税率引き上げ前の駆け込み需要が集中したことがC Iの上振れに繋がった。

### 基調判断は「悪化」で据え置き

こうした高い伸びにもかかわらず、内閣府によるC I 一致指数の基調判断は「悪化」で据え置きとなった。基調判断は、19年3、4月の「悪化」、5～7月の「下げ止まり」の後、8月分において再度「悪化」に下方修正されたが、9月もその判断が維持されている。基調判断が「悪化」から「下げ止まり」へ上方修正されるための条件は「3か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分(0.90)以上」かつ「当月の前月差の符号がプラス」である。9月に高い伸びとなったことで、3ヶ月後方移動平均前月差の値は+0.50と4ヶ月ぶりにプラスに転じたが、上方修正の基準である0.90にはとどかなかった。

なお、10月分が前月差で0.1ポイントでも上昇すれば、「下げ止まり」への上方修正の基準を満たすが、これはさすがに困難だ。10月は駆け込み需要の反動が生じることから、今月大きな押し上げ要因になった小売業販売額や卸売業販売額は急低下が必至であり、C I 一致指数も大幅な低下になることが見込まれるためである。ちなみに14年3月のC I 一致指数は前月差+2.4ポイント、4月は▲4.7ポイントだった。今回は前回と比べて反動減は限定的なものになるだろうが、それでも大幅な低下になることは避けられない。結果として、C I 一致指数の3ヶ月後方移動平均前月差の値は10月分でも再びマイナスに転じるだろう。当面、基調判断は「悪化」が継続する可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。